

佳作

進化の影と人間の改善

赤坂小学校 鈴木 清斗

ぼくたちの身近にいる哺乳類。他にも、鳥類、爬虫類、両生類や魚類など、生命を持ってこの地球上に生息・生存しています。しかし、多くの動物の生息・生存がむずかしくなり、どんどん数が減っています。そして、ついには「絶滅」に瀕して、姿を消すことがあります。

テレビでクマを殺処分、ゾウの密猟など、注目のコーナーでやっていました。それを見て、ぼくに何か出来る事はなにかと思ひ、絶滅について調べようと思ひました。

百獣の王のライオンだって、生産者や、消費者、分解者のバランスが崩れると絶滅すると聞いて、びっくりしました。調べていくうちに、

「バランスの中で一つでも何か欠けていると、私たち人間も絶滅してしまいます」。

「人口爆発」と言われたほど、人間の繁栄はすさまじいものでした。しかし、世界の発展や、進化の影では自然は「絶滅」へ向かっていきました。

例えば、「森林の伐採」。人間から見れば、木は木材や紙として利用できます。しかし、森林に住む動物から見れば、

すみかを無断で破壊されるということです。ぼくは、まずその森林を伐採する必要があるかないかなどの会議を開き、きびしい判断をし、もし、伐採するならば、森林にすむ動物たちを保護し、伐採してしまう森林のような場所をつくってあげればいいと思います。

ほかに、密猟です。ぼくは、「ゾウの牙」を狙う密猟者をテレビや本でよく見ます。「ゾウ」のほかには、「サイ」も狙われているそうです。「お金」目当てで「ゾウの牙」や「サイの角」、ほかにも「シカの角」、など、さまざまな動物が、密漁者の「的」となり、姿を消していくのです。そういう理由でゾウは高いものでEN（近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの）、サイでは高いものでCR（ごく近い将来における野生で、絶滅の危険性がきわめて高いもの）という風にレッドデータブックにのってしまいました。

ぼくは、ポイ捨てや食べ残しが未来の悲げきをおよぼすことをテレビで見て初めて知りました。酸性雨やオゾンホール破壊、南極・北極の氷が早く溶けていくなど、今までにない光景です。それは、地球に関わる重大な問題だとぼくは思ひます。そして何よりも、地球を元の状態に戻さなければなりません。そうなった時、「3R」や外出は歩きや自転車、ごみ拾いという小さなことからコツコツやっていけば、「絶滅しそうな動物」も助けられそうです。未来がどうなるかは、現在を生きるぼくたち次第です。明るく平和で楽しい未来になっているといいですね。